

トンガリササノハガイ

Lanceolaria grayana (Lea)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では 1985 年頃に鯖江市浅水川、福井市六条川、一乗谷川で確認されていたが、その後は生息が確認されなくなり、県内では絶滅したと考えられていた。しかし、近年、嶺南地方の道路建設工事の浚渫土内で死骸が発見されたため、生息の可能性があるととして絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

殻長 80 mm、殻高 20 mm で殻高に対する殻長の比が非常に大きく、淡水貝中最も細長い黒褐色の笹葉型の二枚貝である。殻頂は著しく前に偏り、前縁は丸く後縁は尖る。河川、湖沼の流水域の砂泥底に生息する。

分 布

国内では中部以西の本州、四国、九州に分布する。県内では 1985 年以降は既知の生息地においても確認されていなかったが、近年嶺南地方で生息している可能性が示唆された。

生息を脅かす要因

河川改修や圃場整備による生息地の消失、湖沼の護岸工事等による底質の変化や生活排水の流入による水質悪化等が減少要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、紀平ら（2009）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○													○			○

カラスガイ

Cristaria plicata (Leach)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的にも、近年生息が判明している産地数は少ない。近年は三方湖のエビ漁の柴漬けに 1 個体がかかり、生息が確認されたため、今回は絶滅危惧Ⅰ類のままとした。

種の特徴

殻長が 15 ～ 20 cm、最大で 30 cm になる大型の淡水二枚貝。殻は薄く、光沢のある緑褐色から黒褐色をしている。湖沼や河川の泥底に生息する。産卵期は 3 ～ 7 月で、雌の鰓葉内で受精し、グロキディウム幼生となって魚の鰓に寄生する。

分 布

北海道から九州の平野部の湖沼や大河川の下流部、海岸部の潟湖等に分布する。県内では三方湖、菅湖、水月湖に生息していたが、近年はほとんど確認されていない。

生息を脅かす要因

止水域の埋め立て、湖沼の護岸工事等による生息地の直接改変、底質の変化や生活排水による湖沼の水質悪化が主な要因と考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○							○				

フネドブガイ

Anemina arcaeformis Heude
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

国内においても生息地が限られており、かつ、生息密度も低いとされている種である。県内では 1961 年に三方湖で確認されていたのみであったが、近年の調査で嶺南地方の湿地での生息と北潟湖で死骸 1 個体が確認されたため、絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

殻長 110 mm、殻高 65 mm、殻幅 50 mm 前後。ほかのドブガイ類に比べて殻頂が中央寄りにあり、両殻は比較的によく膨らむ。

分 布

国内では北海道、福井県、山口県で生息が確認されているが、本州での生息密度は低い。県内では三方湖で 1961 年に確認されたのみであったが、嶺南湿地と北潟湖で新たな生息を確認。

生息を脅かす要因

河川改修による生息地の消失、湖沼の護岸工事等による底質の変化や生活排水の流入による水質悪化等が減少要因と考えられる。また、ドブガイ類はタナゴ類の産卵母貝であり、グロキディウム幼生はタナゴ類に寄生するため、これらの種の減少も本種の生息に影響を与えている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）、山下・波部（1993）、波部・増野（1991）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○							○				